

鹿児島県が一斉検診

水俣病 10月にも具体化

鹿児島県は水俣病患者が多数発生した水俣市に隣接する出水市などの一斉検診を実施するよう準備を進めている。九月県議会に実施のための補正予算案を上程し、承認したい十月にも具体化させる。

同県内の水俣病患者は、認定されている人は四人（出水市）要領

患者が一人、認定申請中が四人。また申請したが、否定され行政不服審査請求をして環境庁が審査をし直すよう裁決された人が二人。特に水俣市に近い出水市は潜在患者がいる疑いが持たれている。

鹿児島県衛生研究所が三十五年五月から三十九年三月にかけて実施

した「出水地区住民の水俣病に関する毛髪中の水銀量調査」で延べ千二十八件（九百二十人）のデータによると、異常に高い数値（一〇〇PPM以上）を出した人が二十三人もいた。

これらの追跡調査も含めて一斉検診を実施することとしている

が、実施方法は熊本方式とほぼ同様で、まず出水地区を中心とした漁業者などを対象に第一次調査としてアンケートによるピックアップ、二次は健康調査、第三次は精密調査を進めるため現在具体化を急いでいる。

従来どちらかといえば水俣病については、熊本県が中心になっていたが、鹿児島県でも環境庁の行政不服に対する裁決をきっかけに「住民サイドに立つ公害行政を進めたい」（同県公害課）としており、一斉検診が進めば出水地区な

どの水俣病の実態も浮き彫りにされるものとみられる。